





おうちだに画報

# 鳥取士族の西南戦争

幕末の動乱により江戸幕府は崩壊し、明治新政府が誕生しました。かつての武士たちは「士族」となり、あらゆる特権を奪われ、全国的に困窮していきます。このため、各地では政府に不満を持った士族たちが反乱を起こすようになり、明治10年（1877年）、かつて新政府の中心人物であった西郷隆盛ら鹿児島士族による反乱が勃発します。この西南戦争は、最大かつ最後の士族の反乱となりました。

当時、鳥取士族の中には、大藩の武士であったという意識を払拭しきれない者や、新政府に対し不満を持つものなどが少なからず存在していました。また、明治9年の島根県への合併は、さらなる不満を増大させました。そのため、翌年に起こった西南戦争にこのような鳥取の不平士族たちが呼応し、反乱を起こすと危惧されていました。

明治政府の大久保利通は伊藤博文と図り、反乱を起こしそうな不平士族を政府軍側に取り込もうと、鳥取からも西南戦争鎮圧のための壮兵募集をすることにしました。そこで旧鳥取藩士である河田景與と今井鉄太郎に募兵を依頼します。そしてそれぞれが1200人以上の壮兵を集めました。この際、河田は大久保らの壮兵募集に応じる旨を榑谿神社において盟約しています。結局、政府軍に従軍志願した鳥取士族たちは、実際に現地に出向くことなく、戦争は政府軍側の勝利で終結しました。

7月19日から開催する、展覧会「鳥取士族の西南戦争」では、西南戦争とその前後の鳥取県の情勢、鳥取士族たちの実態や動向などを探りながら、それを政府側がどう見ていたのか紹介していきたいと思えます。また、実際に従軍した鳥取士族たちの記録や、西南戦争で実際に使用された銃や砲弾などの武器、戦争の様子を描いた錦絵なども紹介します。

(やまびこ館 学芸員 奥村寧子)



熊本県 田原坂激戦之図

### 問い合わせ先

やまびこ館 上町88 (0857) 23-2140



東海鳥取県人会で踊りを披露

鑑賞券

鳥取の良さを伝えます